
BLACK CAT ～割と理不尽な宿命～

メカウサー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BLACK CAT 〱 割と理不尽な宿命〱

【Nコード】

N4886M

【作者名】

メカウサー

【あらすじ】

別に間違っただけで殺しちゃったとか、死ぬはずじゃなかったとかいわれるわけでもなく単なる暇つぶしで異世界へと送られてしまう主人公。はたしてこのヘタレはなんか色々と危ない世界で何かを成し遂げることができるのか……？ BLACK CATの二次創作です。作者の更新が亀以下なので、それをわきまえた上で読んでください。

第零話（前書き）

なんだか最近『BLACK CAT』にはまり始めた俺。
ちなみにこの小説は暇つぶし以外のなんでもないで、メインはもう一個のほうになります、ご注意ください。

第零話

突然だが、さっき俺の身に起こったことを説明してしんぜよう。
あ、すいません。謝るから石を投げないで！！ お願いだから！！

＊

俺がこの会社に就職してから実に四度目の春が訪れた。

満開（でもない）桜が、道路の両脇にある植樹スペースにこれでもか、というくらいに植えつけられている光景には目を――ゴメン、やっぱ奪われない。別段咲き誇ってるわけでもない桜に目を奪われるやつなんていないだろう。……まあ、最近の日本人の感覚が鈍くなっているだけというのも否定できないのだが。

……何、『バカテス』？ 表現パクってる？ 何をわけのわからないことを――って、俺は一体誰に言ってるんだろう？

まあともかく。春だからといって特別浮かれているわけもなく、ただ気だるげに「さっさと終わして家帰りてえ」なんて考えながら朝早い時間で、まだほとんど人のいない道路を悠然と走り抜ける。あ、勿論車でね。歩いてなんかとてもじゃないけど行ける距離じゃない。

そんなことを考えていたからだろうか？ 前方から車が来ようとしているのに気づかなかったのは。

恐らく酔っ払いでも乗っていたのだろうその車は、交通安全など微塵も気にせずにこちらに突っ込んでくる。もやもやとした思考の海の中にいた俺は、すんでのところで車をカーブさせるが――遅かったようだ。

ガキゴシャ！！ という音とともに、俺の意識は闇に閉ざされた

――。

＊

――はずだった。本来ならここで「知らない天上だ」と発言するべきなのだろうが――ない。

天上が、無い。な。比喻ひゆでもなんでもなく、無い。な。

……はて？ 俺は一体どうしたのだろうか。A☆ T A☆ M A

☆ でもおかしくなったのだろうか。あ、それは元からか（納得）。……自分で言って悲しくなってきた。

さて。いい加減現実逃避はやめて状況把握に専念しよう。

周りを確認。上下左右全部真っ暗、俺の人生もお先真っ暗。……

どうして俺はネガティブ思考しかできないんだろう（悲）。

それはともかく
閉話休憩。

上下左右がまず何も見えず、かつ平均感覚も曖昧あいまいときた。

……泣いていい？

『えーと。あーあーあー、ただいまマイクのテスト中。……聞こえてるかな？』

そんな風にネガティブ思考の真っ只中にいる俺の耳に、ふとそんなふざけた言葉が聞こえてきた。声音はえらく軽快なモノで、一言で言うなら涼しげな男の声、さわやかボイス。……うらやましい。

そんな割とのんきな思考をしていると、そのさわやかボイス（仮）がこんなことをほざきやがった。

『えー、実はワタクシ神様とかやってるんですが、なんか暇だったのでテキストに誰かを別の世界に送っちゃおうかなーなんて考えているんです』

.....あ？

え？ つ、つつつつ、つまりどういうこと？ え、なんなのこのフラグ？ これって確実に俺を別世界におくるわけだよな。死亡↓転生の流れならまだ納得……できないけど、俺を別世界に送ると？ おいおいふざけんな！

「なんでいきなりそんなこ——『ちなみに拒否権はあーりませーん』——な!？」

『じゃ、いつてらっしやい♪』

いきなり聞こえてきた声から始まる物語——理不尽だ。
そんなことを思考のすみで考えながら、俺の意識は閉ざされた。

第零話 弐（前書き）

眠い……。。

第零話 式

(A M 9・30)

とある病院の一室で、その子供は生まれた。元気のいい産声をあげながら、その子供は二人の男女に抱き抱えられている。本来ならばそれは幸せな家庭の一部分ワンシーンにしか見えないだろう。

——その男女の恰好を除けば。

『貧しい』、その言葉以外には表せないだろう。男性が着ているシャツは所々破けていて、ズボンもツギハギの布を宛あてがっている。髭ヒゲもロクに剃っていないらしく、みすばらしく生えているその無精髭は男がどのような生活を送ってきたかが簡単に想像できる。

女性の方も酷い有様だった。ボロボロに擦り切れたズボンにところどころが薄汚れている白いTシャツ。髪もろくに洗っていないのか、元々は美しかったのであろうその金髪も今ではボサボサで見る影もない。

「ねえ、あなた。本当にこの子を……？」

「……仕方ないさ。僕達にはお金がない。ましてやこの子を養うだけのお金なんて、とてもじゃないけどありはしない。それにもう契約はしてしまってるんだ、今更変えるなんて言い出したら、どんな目にあうか……」

「でもっ！」

「いい加減にしないか！ 僕達にはそれだけの余裕も、資金もない……！
だからこうするしかないんだ……！」

突然喧嘩をしだす夫婦。

しかしながら、その内容はひどいものだった。
自分の息子売る。それが親という存在にとってどれだけ非道で、

悲しく、悔しいことか、想像できるだろうか？

追い詰められている夫婦にとっては、もはやそんな選択肢しか残されていない。

厳しすぎる現実。

この夫婦はどこへ行っても働き手として雇ってもらえず、金すらも満足に稼ぐことすらできない。そんな二人が導き出した結論は一つ。

今度生まれる子供を売ろう。

それが、この二人の編み出した唯一の脱出方法。自分達がこのひもじい生活から抜け出すための、唯一の活路。

そう思った、思ってしまった二人は止まらなかった。あらゆる物事を調べ、裏の世界に足を踏み入れ、時にはマフィアのところに行ったことだってある。

そうしてやっと見つけた、子供を買い取ってくれる組織。二人は意を決し、この組織へと契約を持ち込んだ。明らかに怪しげな集団だったが、自分達が助かるならばそれでいい、と。そう思えてしまふほどに、この夫婦は追い詰められていた。

だが、この夫婦は知らない。自分達が足を踏み入れた、踏み入れてしまった組織がどんなものであったかを。

その組織の目的はただ一つ。

『最強で、どんな命令にも絶対逆らわない、任務に忠実兵士を作り出すこと』。ただ、それだけ。それを夫婦は微塵を気にした様子はなかった。自分達が生き残るためならば、たとえ息子であろうと犠牲にしても構わない、と。

第零話 弐（後書き）

……だるい（熱中症で）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4886m/>

BLACK CAT ～割と理不尽な宿命～

2011年3月20日20時59分発行